

## 国際農業工学レポート課題

### ・国際協力における国際開発コンサルタントの役割について述べよ

国際開発コンサルタントの役割は端的に言えば日本国内に留まらない、世界の安全保障への貢献であると思います。講義でも紹介されていたように NTC インターナショナルのような国際開発コンサルタントは、道路などの交通インフラや水田の灌漑設備の整備と維持管理システムの構築を通して現地の大半を占める農民層の所得向上を図り、物資の流通ルートを整備し、雇用を発生させることで内戦などの影響で経済基盤が脆弱化し、治安が不安定になっているような地域における安定した生活を実現させることができます。すなわち、単なる海外におけるインフラ整備の設計に留まらない、国際的な貧困の解消とそれによる国際平和の実現に寄与することが国際協力における国際開発コンサルタントの役割であると考えられます。

### ・最も印象に残ったキーワードを一つ取り上げその理由を述べよ

今回の講義で最も印象に残っているのは NTC インターナショナルの岩本さんがブルンジでの国際協力の話で紹介されていたコミュニティ開発という言葉です。先週の NTC コンサルタントの大村さんの講義を通して建設コンサルタントという業種は道路やダムなどの建設に際して現地の調査や企画、設計を行う業種であると知るとともに、国や地方自治体などからの依頼を受けた施設に関してのみ仕事を行う、という局所的な役割のイメージが自分の中に出来上がっていたのですが今回の岩本さんの講義で、個々の農民による粗放的な農業によってコミュニティ機能が崩壊していた地域を灌漑設備の整備や道路のインフラ整備を行うとともに共同作業や住民の互助システムを構築することによって地域の総合的な生活向上を建設コンサルタントが担っていることを知り先週までの建設コンサルタントのイメージが覆ったためです。

先週紹介されていたストックマネジメントの話とも関連しますが、海外における国際協力の場面では先進国が作った設備が 10 年後には壊れ使い物にならなくなり放置されている、という状況では全く意味のない事業になってしまうため国内でインフラ整備を行う際と同様にその維持管理のシステムも一緒に構築することに加え、海外事業においてはそのシステムをその地域の住民自身が運営できる状態を実現する必要があります。そのため講義で紹介されていたように、単に道路を整備し灌漑設備などの水利施設を建設するなどのハード面のみ支援に留まらず湿地管理委員会や生計向上委員会、食品加工や市場等農作物のルート整備など農民組織や農外産業組織を構築する、ソフト面の支援を行うことが極めて重要であることが理解できました。

また、ハード面の支援に限った話でも例えば道路の整備の際に現地での材料調達が難しいアスファルト製にするのではなく現地ですり砂を利用している点や、維持管理の効

率を考えて路面に水が溜まり大型車の通行等により轍ができないように側溝の整備を同時に進める点、またその側溝の整備を重機によって行うのではなく敢えて地域の住民の協力を仰ぎ地域雇用を発生させている点など細かな項目に渡って対象地域への配慮や工夫が施されていることも深く印象に残りました。

## ・八田與一について調べ、農業開発に携わる場合に心がけるべきことが何かについて考えを述べよ

まず初めに八田與一さんがどのような人物であるのかを調べた結果をまとめ、調べたエピソードから八田さんの行った事業の中で重要であったポイントを取り上げ、そこから農業開発に携わる場合に一般的に心がけるべきことが何であるかという話に展開していきたいと思います。

八田與一さんは1886年2月21日に現在の石川県金沢市今町にあたる河北郡花園村で生まれ、1910年に東京帝国大学工学部土木科を卒業した後台湾総督府内務局土木課に技手として就職しました。その当時台湾ではマラリアなどの伝染病予防対策が重点的に行われており、八田さんもその流れで衛生事業に従事し嘉義市、台南市、高雄市などの都市の上下水道の整備に携わっていました。その後発電灌漑事業の部門に移り当時着工中であった桃園大川の水利事業を任せられ、この事業を成功させました。ここで八田さんの行った事業が高い評価を得ることになりますが、現在まで語り継がれる八田さんの大きな業績はこの後に行った烏山頭ダム建設とその下流、嘉南平野に細かく整備された嘉南大川という農業水利設備の整備にあるとされています。烏山頭ダムが建設されるまでの嘉南平野は、広大な面積を誇るものの灌漑設備が不十分であり乾季は飲み水さえ手に入らない状況でありながら雨季には洪水が絶えないという劣悪な水利環境でありました。そこで八田さんが官田溪の水をせき止め、トンネルを建設することで曾文溪から水を引き込んでつくる烏山頭ダム建設の計画を台湾総督府に提出しました。しかし当時の台湾の国家予算のおよそ3分の1を占めるような大規模な計画に当初台湾総督府は許可を出しませんでした。そこでも八田さんは諦めず何度も計画を練り直し、掛かる費用の半分を現地の住民から集めるといった折衷案のもと許可が下りました。その後今度は現地の住民からの猛反発にあったものの八田さんは何度も現地の住民との対話、交流を重ね信頼関係を築き上げることによってその反発を弱めついにダムを完成させました。

八田さんのエピソードの中でキーポイントとなったのは、住民の大反発においても住民に上からダム建設の必要性を論ずるのではなく住民と同じ目線に立ちコミュニケーションをとったことだったと思います。また、関東大震災で作業員を解雇しなければならなくなった時に完成するダムの受益者である現地の住民は解雇せず日本人の作業員を優先的に解雇したことで住民との確かな信頼関係を築くことができたということも重要なポイントであったと思います。

このように八田與一さんのエピソードから、農業開発においては開発によって影響を受

ける現地の住民の目線に立ち、対話を重ね、住民のことを第一に考えるとともに言葉だけではなく積極的に行動で自分の意見や主張を示していくことが重要であると考えられます。

～参考文献～

・ NTC インターナショナルホームページ <http://www.ntc-i.co.jp/>

・ 『八田與一』

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%85%AB%E7%94%B0%E8%88%87%E4%B8%80>

・ 9月22日放送 ABC(朝日放送)「ビーバップ！ハイヒール」

～日本人が知らない！世界から愛される日本人～